

新城市議会傍聴記

⑤

地方政治
クリエイティブ
伊藤 秀昭

◆市長マニフェスト

丸山隆弘氏は、市長マニフェストの進捗と評価を聞いた。

市長は特に若者政策や地域産業振興、自然エネルギーに取り組んできた経過や、明確になった課題を踏まえ、残された任期を、ポスト新東名、地方創生に取り組んでいくとした。

丸山氏は、駅前広場整備や鳳来支所周辺整備、基本保育料無償化の取り組みについて確認した。市長はいずれも

入成果を報告した。鈴木氏は人口や高齢化率などの地域性が異なる広い地域別設置の考え方についても問題提起した。同部長は訪問看護サービスの需要ニーズは増加するとし、新設、鳳来、作手の

やりきる覚悟で取り組んでいくとし、市民体育館についても検討を続けていくとした。

来月11月の市長任期満了を1年半後に控えた時点での議論に意味があった。

◆包括ケアシステム
地域包括ケアシステムの構築に向けて、重要な役割を担う訪問看護ステーションについて質問したのは鈴木真澄氏。健康医療部長はモデル事業実施の3年間の取り組み、特にICTシステムの導入

3地区すべてにおいて柔軟な対応ができるように検討する必要があるとした。

住み慣れた場所ですら、自分らしく暮らせるように中山間地の挑戦は続く。

◆産廃問題
浅尾洋平氏は4月から操業を開始した

産廃施設の悪臭被害の対応について質問した。

環境部長は被害届は2件、苦情電話は22件あったとして、苦情に応じて現場で確認を行い、地域の生活環境保全を図っていくとした。

浅尾氏は2014

ら、社長の発言を担保としての操業停止の勧告はできるものではない」と突っぱねた。

滝川氏は二元代表制としながら、置かれている立場、得られる情報量が全く違うことを指摘し、著書では「地方自治の未来は議会が握る、

そのためには議会機能の強化が求められる」と述べていることについて質問した。

市長は「議会と首長の関係において、議会が従属的立場に置かれているのではないかと必ずしも二元代表制である必要がないのではな

い。首長に権限が集中されつつある中で、議会にも執行権などが移行してもいいのではないかと、なご屈託のない議論が交わされた。

◆武將観光
白井倫啓氏は新城市は長篠・設楽原の

戦いの地として広く全国に知られており、新東名の長篠・設楽原PAにも多くの方が訪れている。しかし、戦国武將の足跡を訪ねる武將観光としてすそ野は広がっているのかと問題提起した。

産業振興部長は「地域一体となった観光振興への取り組みや地域全体でのおもてなしという点では不十分」とし、来年はNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」が放送されることから、鳳来寺、柿本城、宇利城など并伊谷(いいのや)縁の地があり近隣自治体と連携し、武將観光を発展させていき

たいとした。

白井氏は武將観光を中心とした点から線、線から面への真剣な取り組みを要請した。

◇
よりよき明日を築くために現状の困難に果敢に立ち向かい、人々の輪を広げ、不条理に屈せずに進む心性は、自分の暮らす社会を「自治する」行動の中でこそ、最もよく育まれるのではないでしようか。「自治する日本」の「はじめに」の穂積市長の言葉です。

「地方自治区」を導入して3年が経過した新城市の挑戦を見守りたい。

「自治する新城」へ熱い視線